

「子供たちの笑顔」

小田原市立城南中学校

三年 松本 佳恩

心から笑って過ごしている子供はこの世に何人いるだろう。あるニュースを見ていた私は、ふとそんなことを考えた。

人々は、平和を望んで生きていると思う。私も思っている。が、テレビをつけると犯罪を犯した人々のニュースがたくさんあり、この世は本当に平和になるのだろうかと不安になる。たくさんあるニュースの中、私の目に留まったニュースは、親が子供へ虐待したり、育児放棄するニュースだった。そのニュースを見て、私は悲しくなった。私の家庭は明るいのに、他の家庭は暗い。こんな差がいつのまにか起きてしまっているのは、苦しかったし、申し訳ないと感じた。

私の家庭は明るい。父は毎日朝から晩まで

仕事して、母はご飯を作って、洗濯して、掃除して、仕事して、妹と弟も仲良く、楽しそうにしている。親は私たちのために私たちの生活を支えてくれる。学校に行けて、勉強できて、毎日楽しく過ごしている。これが当たり前のような感覚でいる。逆に虐待を受けている子供たちは、こんな生活をおくれていない。親が子供を家におきざりにして、ろくな食事もとれなくて、暴力をふるわれて、学校に行けなくて、ひどい言葉を浴びせられて、そんな子供たちがたくさんいる。親は子供のために何の生活の支えもしていない。私たちはまだ子供で、一人で生きていける力は十分に持てていない。だから子供が一人で生きていける力を持てるようになるまで、親はいるべきだと思う。ただいるだけではなく、支えて、寄り添ってあげるべきだと思う。

虐待は、簡単になくならない。そしてすぐに見つけられない。助けるのが難しい。それでも私は、どんな子供でも幸せに生きていて

ほしいと思う。少しでも子供たちが笑顔でいられるように、私は考えた。

一つは、親が自己中心から抜け出すこと。親の育て方が子にうつり、子が大人になったとき、同じような育て方をさせてしまうというのを聞いたことがある。もし親が子供にひどい育て方をしたならば、それはどんどん続いていき、不幸の連鎖を生みだしてしまうと思った。だからこの不幸の連鎖が続かないように、断ち切れたら虐待は減るかなと考えた。が、私はまだ親という経験をしていないからわからない。とても難しいことかもしれない。それでも親は親で、その子供にとって唯一頼れる人だから、自分勝手にならず、少しずつ子供に寄り添い、頼られる人になれるよう努力していったほしいなと思う。

もう一つは、子供が自分の意見をはっきり伝えること。子供はちゃんと自分の意見を述べられる立場にある。そもそも助けを求められなくて、そもそも意見を言うことができな

いかもしれない。それでも、まわりには意見を聞いてしっかりうなずいてくれる人がきつとたくさんいると思うから、「伝えたら、伝わるよ。」と私は子供たちに伝えたい。

最後の一つは、誰かのために自分ができることを考えること。みんながみんな、自分によければいいと考えていたら、いつまでも平和にならないと思う。だからニュースで虐待や育児放棄、他にも殺人、犯罪、戦争などが起こり続けるのだと思う。自分のためではなく、地域や社会、家族のために、自分には何ができるだろうと一人一人が考えれば、まさに「塵も積もれば山となる。」のようにいろいろなところで幸せが増えると思う。

私が地域で社会、家族にできること。それは自分の家族を壊さないこと。よりよくなるように、支えてくれる親に感謝すること。そして地域の中で困っている人がいたら助けること。地域の人と挨拶をかわすこと。私一人だけでは、何もできないと思う。小さくても、

一人一人がやれば、大きなものになると思う。少しずつ、平和にしていきたい。

人間という生き物はとても難しい。人それぞれ人に対しての価値観が違ったり、考え方も違ったり。だから争いが起きたり、誰かが辛い思いをしたりする。私は今、楽しく生きている。これは私にとって当たり前だけど、他の人から見ると「夢のような生活だな。」と思う人もいれば「まずしそうだな。」と思う人もいる。私にとっての当たり前は、当たり前ではなく、むしろ幸せなことだと感じた。だからそんな当たり前日々の日々感謝し、私にある時間を苦しんでいる誰かのために使いたい。

私は、中学生、小学生、幼児、赤ちゃんなどの子供たちが、今もどこかで苦しんで悲しんでいるのは許せないと思う。親が少しでも子供をまっすぐに見つめてあげられたらいいと思う。自分が相手を変えることはできない。相手が自ら変わらないといけない。けれども、世の中そんなに甘くなくて、今にも親

は子供にひどいことをしているかもしれない。
いつか子供が苦しくて涙を流すのではなく、
嬉しくて涙を流し、心から笑って過ごせる社
会になればいいなと思う。